3　各事務室報告

3.1　　図書館総務事務室

図書館総務事務室は，図書館全般の予算管理，契約，委員会運営等の庶務業務，経理業務，図書受入・整理業務，雑誌業務，図書館システム関連業務，および特別資料などの大型コレクション資料，洋雑誌・電子資料の契約業務を含め，図書館の管理運営業務の大部分を担当している。また調達依頼，理事会審議案件の上程など学内関連部署との連携・調整業務全般，学内諸手続き関連業務，さらに補助金申請，各種関連学外団体との渉外業務等，対外関係業務も担当している。

なお，2009 年度から，明治大学東京国際マンガミュージアム（仮称）設置計画に関する業務，その先行施設としての米沢嘉博記念図書館，現代マンガ図書館の運営も上記図書館総務業務と兼務している。これらマンガ関連の業務は本報告書の対象外であるため省略するが，このために必要な人員手当ては行われておらず，図書館総務事務室全体として見ると，非常に厳しい少人数での業務遂行となっている。

（1）　補助金

『全国商工会議所関係資料　第 1 期』（DVD30 枚），「岩田豊樹旧蔵資料一括」（古地図計 15 件 27 点，以下「岩田資料」）の購入費用について「私立大学等研究設備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）」を申請し，2 件とも採択された。「岩田資料」については国の補正予算による同補助金の実施であり，2013 年度末ぎりぎりの申請・採択であった。

（2）　除籍および廃棄

「図書館図書管理規程」に基づき資料の除籍作業を毎年定例的に行っている。2013 年度も，例年どおり 2 回に分け実施した。1 回目は 2013 年 7 月に 6,352 冊，2 回目は 2014 年 2 月に 4,129 冊，合計 10,481 冊を除籍した。毎年 1 万冊を目途に除籍を行っており，2011 年度の未実行，2012 年度約 7,000 冊除籍と最近の実績から除籍の遅れが指摘されていたが，今年度は目標を達成することができた。

（3）　予算減への対応

2012 年 10 月に提示された「予算編成方針」において，経常経費，継続的政策経費の一律 10%マイナスシーリングが 2013 年度の方針として大学から示された。図書費等図書館資料予算，開館業務委託予算についてはこの方針が適用されることはなかったが，2013 年度に開館する中野図書館に関わる新たな費用への考慮が，特に資料費においては全く為されなかった。また整理業務委託費，図書装備用品のための消耗品費等はマイナスシーリングが機械的に適用された。これらは減額不可能な費用であるため，機関リポジトリ構築，蔵書のデジタル化等計画的に進めている事業を縮小し，よってこれら不足予算の補填とした。

また図書館資料費の配分は，上述のように大きな予算減はなかったが，中野図書館の費用が全く考慮されておらず，相対的な減少となった。これを補うため，高額資料および各種文庫資料のために確保してきた「特別資料費」を約 52%削減し，学習用図書費，研究用図書費を補填した。

（4）　故江波戸昭政治経済学部教授旧蔵コレクションの受贈

2007 年，政治経済学部の故江波戸昭教授の，各種民族音楽の膨大な各種音源をはじめとする所蔵資料の受贈について図書委員会で承認され，2011 年から移送作業を開始した。コレクションの所蔵館を 2012 年に開館した和泉新図書館と決定し，搬入作業を続けてきたが，2013 年 9 月 20 日，正式な寄贈の覚書をご家族と取り交わすことができた。コレクションは，これまで図書館として扱った経験のない，LP レコード，カセットテープ，CD などの音楽音源が多数を占めており，今後，整理方法を含め保存，公開方式について検討を始める予定である。

(5)　故岩田豊樹氏旧蔵コレクションの受贈

2009 年から，岩田豊樹氏旧蔵古地図コレクションの寄贈について，ご家族と交渉を進めてきた。本年度，明治大学図書館の管理・運用体制を確認し，また重要資料 15 点を図書館が購入することで，残り資料の寄贈をご家族が決定され，2013 年 10 月にその覚書を取り交わすことができた。古地図は，本図書館の特色ある資料の核を為す資料群であり，その部分がこれにより一層強化される。今後，数千点と見積もられるコレクションの全容を早急に把握することから，作業を開始する予定である。

(6)　目録・装備業務委託

目録・装備委託業者は 2010 年度に一斉に切り替わり 4 年目を迎えた。毎月定例会を開催し，実績報告，業務効率アップ，品質維持向上について協議している。4 年間の継続業務により，当館の要望レベルに確実に近づいているが，一斉に切り替わる可能性のある委託業務を安定させていくためには，職員のスキルも高くなければならない。業務委託への依存度が増す中，人材育成の課題が残る。

2013 年度より中野図書館が稼働し，4館に配架される図書の受入・検収・目録・装備を行うこととなった。業務も複雑になり各業務で大幅なマニュアル改定を行った。

(7)　城市郎文庫

2013 年 9 月末にも追加の寄贈をうけた。それらを含めてコレクションのカテゴリを再編成し，仕分け作業を行った。発禁本および周辺資料あわせて約 1,510 冊の目録・装備を行った。また，雑誌類(635 タイトル，約 4,000 冊)，非図書資料の仕分けと記録作業も行った。2014 年度も継続予定。

(8)　クリスチャン・ポラック コレクション

2013 年度は 2,544 冊の整理を行った。コレクション名称を「ポラック文庫」ではなく，「クリスチャン・ポラックコレクション」とした。2014 年 4 月 26 日より神奈川県立歴史博物館にて開催の「クリスチャン・ポラックコレクション　繭と鋼―神奈川とフランスの交流史」展への資料貸出を行った。2014 年度も継続予定。

(9)　政策経費購入資料への対応

経常予算以外で購入された以下の資料の目録・装備を行った。

設置経費　国際日本学研究科（固定 50 冊　簿外 1,742 冊　計 1,792 冊）
　　先端数理科学研究科（109 冊）
　　総合数理学部（801 冊）

(10)　図書受入・検収業務

中野図書館の新設やブックハンティング等のイベントでの指定書店方式採用が増加し，データ処理も複雑となった。しかし，2012 年度に指定書店方式発注の見直しを行った結果として，まだ安定しているとはいい難いが，2013 年度は比較的スムーズにデータ処理を行うことができた。

(11)　雑誌整理・受入業務

業務委託開始から 6 年を経過し安定的に稼働しており，中野図書館分の増加についても大きな混乱はなく進めることができた。整理業務については，目録作成・修正の委託範囲を拡大した。受入業務については，年間前払いのものについて消費増税に関連した確認作業が増加した。また，年度末の購入分受入締切の延長を行った。

(12)　システム関連業務

4 月，中野図書館開館のためのデータ更新作業，情報機器の選定，導入作業を行い，キオスク OPAC（linux ノート PC によるスタンドアロン OPAC）の導入，運用に成功した。

夏には全館の図書館業務用パソコン，プリンターの更新作業を行った。事前にファイルサーバ，アクティブディレクトリサーバを更新していたためスムーズに機器の入れ替えを行うことができた。並行して，個別のクライアント環境に依存していた業務用アプリケーションをサーバーサイドで稼働するよう移行作業も実施した。利用者の自由度を確保しつつ安全性の高い環境を提供することができ，現在大きな障害もなく安定して稼働している。

次年度夏の図書館業務システムサーバリプレイスに向けて，既存サーバを仮想化し物理サーバの撤去など準備を進めつつ調達を行った。新システムは仮想サーバによる構築となり，運用管理コストが大幅に下がることが期待できる。

(13) システムチームの他部署協力について

2013 年度も継続してユビキタス e-learning（ユビキタス教育推進事務室）の認証システム，学習支援ポータルサイト（manaba folio）の認証システムを提供した。

3.2 中央図書館事務室

中央図書館は，大学創立 120 周年記念事業の一環として建設され，2001 年 3 月 16 日に開館した。街と人の記憶に融合するように設計され，美しい内観と充実した設備を備え，2002 年日本図書館協会建築賞を受賞した。専任職員 9 名，短期嘱託 3 名，業務委託スタッフ 21 名，総合インフォメーション 6 名あわせて 39 名，学生アルバイト若干名で運営され，他の 3 図書館事務室と連携して，蔵書体系や図書館リテラシー教育の拡充を推進した。

(1) 休日開館日におけるサービス

休日開館日は，業務委託要員配置の都合から利用者のセルフサービスが基本である。2008 年 11 月以来，貸出，予約，配送本受渡し，貸出ノートパソコン利用のサービスを実施してきた。ロダンルーム，グループ閲覧室，マイクロ閲覧室を除き，利用が可能である。

(2) 図書の返却窓口

貸出図書の返却窓口は，1 階エントランス返却用ポスト，レファレンスカウンター，地下 2 階貸出カウンターのほかに，防災センター前の返却ポスト（リバティタワー閉館中も利用可），和泉・生田・中野図書館の窓口，郵送宅配でも返却を受け付けている。

(3) 入館者総数・各種ガイダンス等

入館者総数は，790,950 人（2012 年度 880,263 人）だった。新入生ガイダンス（大学院研究科，法科大学院，会計専門職研究科，＜一部の研究科は悪天候で中止＞），文学部 3 年次ガイダンス，留学生オリエンテーション（英語），新任教員ガイダンス，専門職大学院秋季入学者（日本人・留学生），短期研修生ガイダンス，図書館ゼミツアー（参加者計 714 人），情報検索講習会を実施した。高校生等の図書館見学ツアー（業務委託スタッフ担当）は 134 グループ，計 4,088 人（オープンキャンパスを除く）の参加者があった。

(4) 中央図書館ギャラリー展示

中央図書館事務室 4 名，図書館総務事務室 3 名のワーキンググループで展示活動を行った。教員や学外関係者と連携し，メンバーが企画・渉外，解説執筆，印刷物作成，展示作業，広報を担当した。展示タイトルは「4 主要行事・イベント」に載せた。展示情報は新聞紙面で紹介されることもあった。千代田区ミュージアム連絡会に参加し情報交換を行った。

(5)　各種イベント等の開催

利用マナー教育と読書活動推進を兼ねて，図書館オリジナルバッグのデザインコンテストを行い，最も人気の高いデザインで図書館バッグを作成し，各館・ローライブラリーで読書週間に提供した。「知」による社会貢献として，夏休みに小・中学生が大学図書館の業務を体験する第 5 回「一日図書館長体験イベント　大学図書館長のイスをめざせ！」を開催した。2001 年 3 月 16 日開館以来の延べ入館者数が，2013 年 5 月 15 日に 1,100 万人に達し，図書館長から該当者（政経 4 年）に認定証と記念品を贈呈した。

2013 年 10 月 17 日に第 3 回ブックハンティング（学生選書ツアー）を開催した。

第 4 回図書館書評コンテストは，積極的な図書館活用を奨励するとともに，優れた書評の顕彰を通して学生の読書活動を推進することを目的とし，4 図書館で「書評の書き方講座」を開催した。応募作は，4 図書館有志による予備採点，選考部会による選考を経て最優秀賞等が選定され，2014 年 2 月 3 日に中央図書館で授賞式を行った。

(6)　施設・設備の保守・管理

8 月：記念図書館書庫エレベーター更新工事，10 月：新聞コーナー・入退館ゲート監視カメラ設置工事，12 月：貴重書庫空調加湿改善工事，2014 年 1 月：非常放送盤更新工事，2～3 月：ローライブラリー・「エルムの森」改修工事，3 月：地下 3 階共同閲覧室内壁補修工事，汚水・雑排水槽マンホール更新工事ほか。地下 3 階自動書庫マイクロフィルム搬送機，ダムベーダー，ブックディテクションシステム（BDS）等の定期点検，閲覧用椅子 140 台のクロス張替えを行った。

(7)　大学主催「環境展」への協力

「環境展」（リバティタワー1階でパネル展示，2013 年 12 月）で，図書館所蔵の環境問題関連図書（地球温暖化や食の安全について本学教員が執筆した図書）のリストを配布した。当該図書は図書館入口に展示し貸し出した。

(8)　ローライブラリーと法学研究科院生の利用促進

ローライブラリーは，中央図書館の館内整理休館日も開館した。法学研究科院生は，法科大学院生と同様に学生証の提示で入館できる。ローライブラリー閲覧室に隣接する「エルムの森」資料室の拡張工事のため，2014 年 2 月 17 日から 3 月 31 日まで休館。工事期間中，司法試験受験参考書は地下3階サポートカウンターで利用に供した。

(9)　利用者からの要望への対応

2001 年の開館当初から投書箱へ投書を募り，利用環境の改善・図書館サービスの向上に努めてきた。要望に応じて夏期休暇期間の開館時間延長（2012 年夏から 9 時開館）などサービスを改善した。投書数は漸減した。2014 年 2 月第 3 回フォーカスグループ「図書館どうですか？　How are we doing？」を開催し，図書館員と業務委託業者が，学生から直接，生の利用者の声を聴取し質疑に応じた。

(10)　国際交流への貢献

国際交流にともなう海外からの視察や図書館利用者を下記のとおり受入れた。アテネオ・デ・マニラ大学日本語短期研修プログラム，ノースイースタン大学共同プログラム，南カリフォルニア大学共同プログラム，日本語短期研修プログラム（夏期），タイ王国シーナカリンウィロート大学共同プログラム，情報コミュニケーション学部短期学生交流プログラム 2013，日本語短期研修プログラム（冬期）などで，件数は昨年度よりも漸減した。

(11)　東日本大震災後の対応

防災センターの指導で，5 月の館内整理休館日に自衛消防・避難誘導訓練を行い，2014 年 3 月 11 日の開館中に利用者も参加して避難誘導訓練を行った。

(12) 懸案事項

地下 2 階記念図書館書庫・第 3 書庫の狭隘化解消，増大する雑誌・電子ジャーナルへの適正な対応，地下 3 階の書架増設，共同閲覧室扉からの騒音遮断防音壁の設置，ラウンジ・リフレッシュコーナー・点字閲覧室書架の用途改善等が懸案である。

3.3 和泉図書館事務室

新図書館開館 2 年目は図書館の評価の年である。2013 年 5 月 27 日（月）午前 11 時に 100 万人目の入館者数を記録した。しかし国際日本学部の移転に伴い，サービス対象学生数は 2012 年度比 6.6%減となり，これに伴い各種統計の数値は若干減少した。その一方，12 月 2 日（月）から世田谷区民の図書館利用を可能としたことにより，図書館は依然として活況を呈している。地域開放は今や大学評価の重要なファクターとなっており，学習支援活動の強化とともに，可能な限りの社会貢献を進めていく方針である。

(1) 業務体制と人事政策

業務体制は職員数では，専任職員 6 名嘱託職員 1 名であった。和泉キャンパスの学生数 1 万人及び杉並区民，世田谷区民（12 月から開放）の利用対応職員数としては不十分であった。初年次教育の中心的役割を担うキャンパスであり，急増する授業内図書館ガイダンス年間 176 回は，専任職員だけでは実施限界をはるかに超えており，委託業者の協力を仰がなければならなかった。人事異動による業務体制では，担当業務を複数経験することがキャリアパスとなり成長を促すという観点から行った。また，時間外労働を軽減するために，積極的に時差勤務を薦めて人件費の抑制に努めた。

(2) サービス体制と運用

2013 年度も引き続きサービス強化に努めた。入館ゲートにおける毎朝の開館時 10 分間挨拶は定着した。またこの間，入館ゲートで世界の民族音楽コレクションの一部を鳴らすことで入館者の気持ちを和らげ，教員からの評価もあった。和泉図書館のこの取り組みは他大学にも伝播し，神戸の私立大学でも行われている。専任職員のガイドを伴う他機関からの見学者（件数）は開館以来延べ 1,352 人（191 件）であった。なおガイドを伴わない自由見学の件数は年間 1,377 件である。

館内は午後の時間帯，とりわけ水曜日が最も賑わいを呈し，混雑解消のために業務委託者 2 名を入館ゲートに配置している。学習支援の要として，レポートの書き方の支援の強化をはかり，1 階サーチアシストと 2 階レポートの書き方ナビ・ステーションで支援を行った。さらに様々なイベントを企画し，図書館外の部署と連携して図書館利用の活性化を図った。なお新たに始めたサービスに「図書館かご」がある。これは他キャンパスなどから多数の資料を取り寄せた場合の持ち運び用として備えたものであり，コピー室用に使われている。また借り出した本が鞄に入らない場合には，ビニール袋や紙袋を渡している。

(3) 新入生オリエンテーション

図書館利用案内（約 30 分）を実施した。新図書館がオープンして 1 年後の図書館オリエンテーションであり，目標を「新図書館のコンセプトの伝播」と位置付けして，説明者のプレゼンスキルの実践の場とした。スタンプラリーは例年どおり実施した。さらに，図書館の本を借りた新入生に対し，図書館オリジナルバッグをプレゼントした。図書館バッグのプレゼントにより貸出冊数も前年度よりも増加し，新入生に本をより身近に感じてもらえることに成功した。

(4) 杉並区図書館ネットワーク・世田谷区立図書館との連携

杉並区民・区内協定校のライブラリーカード発行枚数は 178 枚となり，前年度発行枚数 306 枚より 128 枚減となった。校友のライブラリーカード発行枚数は 239 枚であり，前年度発行枚数 282 枚より 43 枚減少となった。減少となった理由は，今年度は新図書館開館 2 年目となり，利用者数がやや落ち着いたためである。

杉並区図書館ネットワーク講演会
「洛中洛外図屏風　－　都の賑わいと四季の移ろい」
【日　時】2013 年 10 月 12 日(土)　14:00～15:30
【場　所】杉並区立中央図書館視聴覚ホール(地下1階)
【講　師】鹿島 繭(かしま・まゆ)　女子美術大学短期大学部准教授
【参加者】約 60 名

社会連携事業の一環として，杉並区立松渓中学校 2 年生の職場体験学習を受け入れた。
2013 年 5 月 13 日(月)～5 月 17 日(金)男子 2 名。

世田谷区立図書館との相互利用を開始した。2013 年 12 月から 2014 年 3 月までの利用登録者数は 50 名，館内閲覧者数は415名であった。相互利用に先立ち，世田谷区立梅ヶ丘中学校2年生の職場体験学習を受け入れた。2013 年 9 月 11 日(水)～9 月 13 日(金)女子 2 名。

(5)　広報活動の充実

主な報道
●TV
フジテレビ「めざましテレビ」2013 年 4 月 22 日放送／「ココ調」
BS-TBS「グローバルナビフロント」2014 年 2 月 15 日放送／「静かなる革命　オフィスイノベーション」
●新聞
朝日新聞　2013 年 9 月 27 日　朝刊　34 面
　「集い語る大学図書館に　おしゃれな空間利用者増える　教員と連携，学習を支援」
建設通信新聞　2013 年 11 月 6 日　朝刊　10 面
　「素材 NOW＝着色コンクリート　日本にも打放し事例　明大和泉図書館は木質色調」

3.4　生田図書館事務室

生田図書館は 1969 年の開館後，築 44 年を経た図書館で，1988 年の増築後も 25 年を経ており，現代の大学図書館に必要とされる学修環境が整っていない。近年，グローバル環境に対応できる人材育成のための大学教育の質的転換が喫緊の課題となっており，その前提となる学生の学修環境の充実が求められているが，2013 年 8 月 21 日文部科学省のホームページで『学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議のまとめ)』が公開され，学生が主体的に課題解決に取り組む能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換とその基盤となる大学図書館の機能強化や ICT を活用した双方向型授業・自修支援など，学修環境整備の推進の重要性が明記された。

理工学部，農学部からなる生田キャンパスは，一度登校すると実験や研究で長時間キャンパスに留まる学生が多く，大学院生の数も1,000名を超える研究滞在型キャンパスである。図書館内に能動的学修空間を設置することについては生田キャンパスの先生方の関心も高く，理工・農両学部長，生田キャンパス選出の副館長，図書委員など多くの先生方のご意見を伺いながら計画をまとめ，政策経費で「アクティブ・ラーニングルームの設置」を申請した。両学部長からは「図書館内に能動的学修空間を設置することで図書館が持つ豊富なコンテンツや情報環境の利用と図書館員による人的支援が期待できる。自習室や研究室ではできないことである。設置は必要である」とのご意見をいただいた。残念ながら大学の財政状況の厳しさを理由に申請は通らなかったが，学生は 4 年ないし 6 年で卒業していき，新生田図書館建設を待っていては，生田キャンパスでは現代の大学図書館で必要とされる機能強化が追いつかない。速やかな実現を目指して次年度以降も引き続き，生田図書館の能動的学修環境の整備計画をあげていく予定である。

2013 年度後期から生田図書館ギャラリーZERO において昼休みの 20 分間，教員が自分の経験や生き方，学生と社会とのかかわり，人生についてなど授業とはひと味異なる話を自由に話し，学生たちも人生の先輩である生身の教員と語り合う場として，また，学部を超えた参加者同士のコミュニケーションの場として『ココ♡スパ！』を開始した。コーディネーターは賀来副館長である。ココスパとは「ココロにスパイスちょっといい話，時にはゆったり癒しのスパ気分」の意味がある。回を追うごとに参加者が増え，30 名を超える時もある。生田キャンパスというコミュニティの中で，コミュニティの構成員である両学部の学生，大学院生，教職員の声を聞き，必要とされるものを図書館は今後も提供していきたい。

(1)　施設工事・整備

省エネ照明器具への更新が未実施であったエリア（B2 書庫，1F，2F の第 1 開架以外，3F）の工事が夏季休暇中に実施された。また，1F 研究者個室への無線 LAN アクセスポイント増設工事を行い，書庫を除く全エリアで無線 LAN の利用が可能となった。

(2)　展示ギャラリーの運用

2013 年度は 10 件（学部・研究科等企画 6 件，図書館企画 4 件）の企画展示を開催した。内容は学部生・大学院生の作品発表，教員・研究室・ゼミナールの研究・活動成果発表等。詳細は「4　主要行事・イベント　展示一覧　生田図書館ギャラリー（Gallery ZERO）」参照。

(3)　ガイダンス及び情報リテラシー教育の充実

年度初め，理工学部 2 回（対象者 1,006 名），農学部 1 回（同 588 名）の新入生への図書館利用ガイダンスを実施。また，4 月 4 日から同 19 日の間，スタンプラリーには計 75 名が参加した。4 月 5 日には 19 名を対象に新任教員へのガイダンスを実施した。

次に年間を通じての活動として，18 回のゼミツアー（含・グループガイダンス）に計 148 名が参加した他，情報検索講習会（Web of Science/ EndNote Web，Scifinder，JDream Ⅱ，大学院生によるレポート・論文書き方講座）を全 5 回実施し，計 86 名の参加があった。後期に生田就職キャリア事務室との共催で実施した「日経テレコン講習会」（全 5 回・11 月 11 日～21 日）については，114 名の参加があった。

なお，2013 年度も農学部からの依頼により，食料環境政策学科の「基礎ゼミ」（受講者 143 名）のうち 2 コマ「図書館利用法と新聞記事検索演習」，『図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」に計 8 回の出張講義を行った。

(4)　学習用図書選書

利用の多い「資格・就職・進学コーナー」の大幅入替を行い，最新の資料を取り揃えた。また，理工学部，農学部は従来から文学部に次いで教職課程を履修する学生が多く（2013 年度理工学部，農学部，大学院の教職課程履修者数は計 748 名），投書等を通じて関連資料を図書館に揃えてほしいとの声があり，資格課程シラバス隣に「教職」コーナーを新設し，首都圏各地の教員採用試験関係の資料を配架した。

図書館資料を使って英語学習を進めるために教員からの要望を受け，「ペンギン・リーダーズ」のレベル 1～6，「オックスフォード・リーディング・ツリー」のステージ 1～9，さらに「マクミラン・リーダーズ」「ケンブリッジ・イングリッシュ・リーダーズ」を配架した。

学生によるブックハンティングは 5 月 25 日と 12 月 14 日の 2 回実施し，604 冊を購入した。

(5)　特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を新着図書コーナー隣の書架に配架し，利用者に読書に親しんでもらう機会とした。

4 月　1 日(月) ～　4 月 23 日(火)　図書館スタッフおすすめ本
4 月 24 日(水) ～　5 月 28 日(火)　Books on Books

5 月 29 日(水) ～ 6 月 25 日(火) 「なぜ？」からはじまる
6 月 26 日(水) ～ 7 月 23 日(火) MEIDAI Book NAVI 2013
7 月 24 日(水) ～ 10 月 8 日(火) 2013 年度第 1 回ブックハンティング
10 月 9 日(水) ～ 11 月 5 日(火) 「シゴト」を読み解く～就活に負けない
11 月 6 日(水) ～ 12 月 3 日(火) ダーウィン以来～進化論への招待
12 月 4 日(水) ～ 1 月 21 日(火) 旅行にでかけよう
1 月 22 日(水) ～ 3 月 25 日(火) 図書館スタッフおすすめ本
3 月 26 日(水) ～ 3 月 31 日(火) 2013 年度第 2 回ブックハンティング

(6) 川崎市立図書館との相互協力

川崎市立図書館(全館)との協定は 4 年目となる。2014 年 1 月に川崎市立多摩図書館長の呼びかけで，多摩区 3 大学図書館・川崎市立多摩図書館連携状況連絡会議が立ち上がり，多摩図書館において第 1 回の会合をもった。この会議は会場を持ち回りとして定期的に開催し，多摩区 3 大学図書館と多摩図書館が相互協力関係を進めていくための情報交換，情報共有の場である。2014 年 6 月には生田図書館を会場として会議が行われる予定である。2010 年度からの統計推移は以下のとおりである。

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
LC 作成者数	137 名	58 名	58 名	70 名
入館者	3,271 名	4,046 名	3,788 名	3,668 名
貸出冊数	1,805 冊	2,061 冊	2,452 冊	2,689 冊

3.5 中野図書館(中野教育研究支援事務室)

中野図書館は，明治大学中野キャンパス開設に伴い，2013 年 4 月 1 日に開館した。低層棟 2 階のほとんどを占め，座席数 172 席，面積 857 ㎡，収容可能図書冊数約 46,000 冊という規模である（開館時の蔵書数約 21,000 冊）。中野キャンパスは，和泉キャンパスから移転した国際日本学部と 2013 年度新設の総合数理学部を中心として学生数は約 2,150 名であった。II 期工事も検討するとされ，まずこの場所・面積で設計された。館内はグレーやシルバーを基調とした色合いで，メタリックな感じであるが，落ち着いた雰囲気である。スタッフは専任職員 2 名，派遣職員 2 名，業務委託者 11 名(1 部・2 部合計)で新しい図書館をスタートした。

(1) 開館運営状況

2013 年度の入館者数は，のべ 97,633 名であった。平日平均 500 名ほどである。日・祝日も基本的に開館したが，平均 60 名ほどであった。

貸出冊数は 27,919 冊で，学生については一人あたり約 11 冊というところまでいった。ただ他キャンパスからの配送も多い。他キャンパスからの取り寄せ依頼は，1 年間で約 13,700 冊だったので半数近くは配送資料ということになる。他館では多いところでも貸出冊数の 2 割程である。

学生以外の利用者としては，他館同様に校友の利用も定着し，リバティアカデミー会員の利用もある。山手線コンソーシアム利用は 2013 年度は不可としていたが，サービス改善のため 2014 年度から利用可に変更した。

サービス全般的には，委託業務も順調で円滑な開館運営が実施できた。

(2) 施設・設備の管理

新築建物ということで，施設・設備の不具合の是正，修繕が多かった。

入退館ゲート:開館前の調整が不十分で，正常化するまで 1 か月近くかかった，またその後も改善課題があり 9 月まで数回にわたる作業があった。

水関係：西側非常口から雨水侵入，大雪の日に事務室天井隅にしみが発生。
音関係：換気扇コンバータ(キーン音)，東側窓付近で日が差してくると散発的に音(チッというような音，2014年3月から5月に改善工事実施)，返却ポストの蓋開閉時騒音，事務室天井からの振動音
空調関係：事務室温度調整の難しさ，館内梅雨時の湿度上昇・冬季の乾燥
その他：事務室電子錠の修理，閲覧机の照明スイッチ接着テープの貼り直し，ブラインド修理，西側非常口ブラインド設置，カードプリンター(オプション追加や調整)，マイクロリーダー・ディスプレイ，デジタルサイネージ(コンテンツの表示不具合調整など)

(3)　蔵書構築について

中野図書館学習用図書予算で購入した図書は 5,550 冊であった。新刊見計らい，カタログ，新聞書評紹介図書からの選書が主である。新領域創造専攻向けに写真集の蓄積が既にあったので，受賞作品や写真雑誌から少しずつ選書もしている。

基本書の補充としては，12 月までに他館からの配送が 2 回以上あった図書から選書した。また，開館時の蔵書は 2011 年刊行図書が多かったので，昨年度 2012 年刊行図書から選書・発注した。

簿外図書では，教員から要望があり英語リーダーの複本を半分程度購入した。また，国際日本学研究科の設置予算ではあるが，岩波文庫をセット購入(約 1,700 冊)した。

設置に伴う図書購入は，ほかに先端数理科学研究科，総合数理学部があった。

年度末時点での蔵書数は，32,000 冊余りとなった。

(4)　各種ガイダンス・イベントの実施

新学期の各種ガイダンスのほか，ゼミガイダンス，出前授業，DVD 上映会，Web of Science 講習会，企業情報の探し方講習会を実施した。また後期試験前にはレポートの書き方相談をレファレンスカウンターで受付した。

特設コーナーで図書館スタッフがテーマを決めて，関連図書の展示を通年行った（計 16 回）。11 月 16 日(土)，紀伊國屋書店新宿本店でブックハンティングを実施し，5 名の学生の参加があった。アンケートは好評で継続実施希望などの意見があった。

(5)　今後の課題

大きな課題としては，図書の増加に対して数年のうちに書架が満杯になることがある。早めの対応・準備が必要である。

利用者ニーズにあった選書・発注もさらに必要であろう。絶版で購入できない図書も多いことは確かだが，過去の図書もまだ確認の必要が残っているし，他館にあって中野にない図書からも選書の余地があると思われる。新刊もさらに厳選していかなければならない。

図書館情報リテラシー教育では，レポートの書き方支援などを増やし，イベントや本の紹介活動も幅を広げて，読書推進をはかっていきたい。